

1. 新審判委員長就任のご挨拶
2. 2022年度審判委員会組織
3. 2022年度春季昇級挨拶 サッカー2級
4. 2022サッカー競技規則改正のポイント説明

■ 新審判委員長就任のご挨拶 蒲澤 淳一



この度、公益財団法人東京都サッカー協会審判委員会の委員長に就任いたしました蒲澤淳一です。前任、牧野委員長の公益財団法人東京都サッカー協会理事の任期満了に伴い、理事と審判委員長の任を受け継ぐ事になりました。牧野委員長の足下にも及びませんが、皆様の協力を頂戴して進んでいきたいと考えております。

牧野委員長の活躍功績は、皆様周知の事であると思います。長年にわたり東京の審判委員会をまとめて牽引していただきました。私が東京の審判委員会指導部員として審判委員会のメンバーになったのは、当時の牧野指導部長の部員を増強したいとの意向からでした。長年の活躍功績にこの場を借りて感謝したいと思います。ありがとうございました。

昨今の社会情勢の変化には驚く事も多く、サッカー・フットサルを取り巻く環境も刻々と変化していると感じています。この春には公益財団法人日本サッカー協会の審判委員長も交代があり、前任の黛氏から扇谷健司氏が委員長に就任しました。私と扇谷委員長は1級審判員の同期であり、この絶妙なタイミングに縁を感じずにはられません。日本協会と東京協会は強力な協力関係であり、審判委員会としても扇谷蒲澤ラインを構築して強力に推し進めていきたいと考えています。日本協会審判委員会は「全てのサッカーファミリーが”フェアで安心安全な試合”を楽しめるように審判員の育成と競技規則とその精神の理解・浸透を行う」というミッションを掲げました。このミッションを実現するために「普及」・「育成強化」・「競技規則の浸透」・「環境の整備」・「トップ審判員の輩出」という5つのビジョン・重点領域を示しています。東京としてもこのビジョン、ミッションを見据えた事業活動が求められており、東京のサッカー・フットサルがグラスルートからトップまで、フェアで安心安全な試合を楽しめるように精進していきたいと考えています。

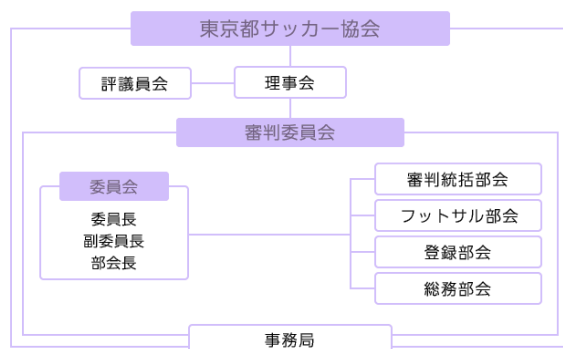
東京はサッカーとフットサル全てのカテゴリーで登録数（選手、指導者、審判員、審判指導者）と試合数が日本最大であり、全てを把握してきめ細やかな対応や配慮を行う事が非常に困難な状況です。しかしながら日本最大であるからこそ、多彩な人材や才能、大きな可能性があり、想定の外を大きく超えて飛躍・発展、そして成功に至ることも多々あります。皆様とこのビジョンミッションを共有して同じ方向で歩む事が、東京のサッカー・フットサルと皆様の更なる飛躍に繋がると考え信じています。サッカーファミリーとして審判委員会は皆様を全力で応援サポートします。皆様におかれましては、常に前向きなオープンマインドでトライ・チャレンジする気持ちを持ち続けて頂きたいと思っております。体調管理には留意頂き引き続きのご協力を何卒よろしくお願いいたします。

■ 2022年度審判委員会組織

6月より審判委員長が代わり新体制となりましたが、2022年度の組織構成は図のとおりで変更はありません。

審判統括部会は主に、東京FAからサッカーの審判割り当てを受けているアクティブ審判員の指導・育成を担当するS2級パート・S3級パート・女子パート、そしてアクティブ審判員以外の東京の多くの審判員の皆様への取り組みを手掛けるグラスルートパート（各連盟担当/区市連盟担当）、更には実践や理論のトレーニングを担当するトレセンパートに分かれており、各パートで審判事業を展開しています。また、審判指導者の指導育成を統括的に扱う「指導者チーム」を立ち上げました。

前号で特集しましたとおり、審判委員会といたしましては都内の各区市や連盟で広く行われている試合の審判員の皆様や審判指導者向けの学びや実践の場を提供し、多くの登録審判員の方々に少しでも審判技術や



競技規則の理解を高めてもらえるよう、そして東京のサッカー全体がより良いものになるよう取り組んでまいります。皆様、審判をする上での日頃の悩みや疑問について、身近にいる上級審判員や審判指導者の方に是非質問してみてください。解決の第一歩となるはずです。

- 委員長 蒲澤 淳一 副委員長 高橋 早織・佐藤 貴之
- 審判統括部会長 飯田 淳平 ● フットサル部会長 向山 悟
- 登録部会長 小池 昌紀 ● 総務部会長 佐藤 貴之（兼務）

■ 2022年度春季昇級挨拶

〈 サッカー2級 〉

2022年度春の関東サッカー2級昇級審査が行われ、東京から新たに4名のサッカー2級審判員が誕生しました。新しいステージでの皆様のご活躍を期待します。



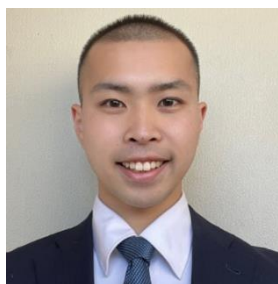
（竹内 健史氏）

この度、サッカー2級審判員に昇級させて頂きました竹内健史（たけうちたけし）と申します。
審判活動をサポートしてくれた家族、始めるきっかけを頂きました調布市少年サッカー連盟、他みなさまには深く感謝申し上げます。
私は、サッカーの審判は日頃培われたパーソナリティーがレフェリングに反映されるところが大好きです。
今後、地域のサッカーに少しでも貢献できるよう、コンディション調整に留意をし、さらなる成長を目指していく所存です。
今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



（朝倉 大翔氏）

この度、2022年度春に昇級いたしました、朝倉大翔と申します。
昇級にあたり、多くの方からサポート・アドバイスをいただきました。この場を借りてお礼申し上げます。
今こうしてシルバーのワッペンを左胸に着けてみると、改めて身の引き締まる思いです。12歳から審判を始め、3級に昇級してから7年、ここまでの道のりは決して平坦ではなく、思い描いていたものとは全く異なるものとなりましたが、これまで支えてくださった皆様へ恩返しができるように精一杯努力します。
まだまだ至らぬ点多いですが、今後ともどうぞよろしく願いいたします。



（蛭名 航平氏）

この度、2022年春に昇級いたしました蛭名航平と申します。
これまで多大なるご指導、ご協力を頂きました東京都サッカー協会審判委員会の皆様はじめ、ともに切磋琢磨しあった審判仲間の方々、そしてピッチで出会った選手・指導者の皆様へこの場を借りて感謝申し上げます。
一つの目標へ到達できたことに嬉しさを感じる反面、より高いレベルの環境に身を置くことに対し身の引き締まる思いです。現状に満足することなく、サッカーの魅力を最大限引き出すパフォーマンスを目指し続けると共に、私自身を人間として成長させてくれたサッカーと関わって頂いた皆様に還元できるよう精進して参ります。
変わらぬご指導、ご鞭撻の程よろしく願いいたします。



（筑井 諄氏）

この度、2022年度春に昇級しました、筑井諄と申します。
私は大学入学を機に審判活動を本格的に始めました。これまでに東京都サッカー協会の皆様を始め、インストラクターや上級の審判員の皆様、東京アカデミーや同世代の審判員、家族など多くの方々からご指導、サポート、刺激を頂いてきました。この場をお借りし厚く御礼申し上げます。また、サッカー人生の礎を築いてくれました選手時代のコーチやチームメイトにも感謝しています。
今後も「サッカーのために」「選手のために」これを大切に精進していきたいと思えます。未熟な私ですが、引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

■ 2022サッカー競技規則改正のポイント説明

今年度も競技規則の改正が日本協会から通知されました。今回の改正では規則を改めて文章にして明確化したものが多く、新たに審判運営に大きく影響を及ぼすものは少ないと考えていますが、いくつかの点について整理をいたします。

第3条の交代についての改正は、いずれもトップディビジョンにおけるクラブのトップチームまたは各国の「A」代表チームの競技会において適用されるものとなっています。すぐに東京の試合で改正が適用されることはないかもしれませんが、この改正内容に限らず、審判員の皆様は競技規則の変更があった場合には、競技会規定や大会本部役員との確認を行い、正しく試合を進めるようにしてください。

実際に交代回数が定められている試合を担当する際、交代のときには、「今の交代で（交代回数は）●回目、（交代人数は合計で）○人」と心の中でつぶやいたり、あるいは確認のために第4の審判員に向かって言葉に出していてもよいかもしれません。なお、試合以外の時間（ハーフタイム、後半終了と延長戦の間のインターバル、また延長戦のハーフタイム）に行う交代は、交代回数としてカウントしませんので間違わないようにしてください。

また、交代(A)が完了したところ、同じチームの競技者にケガ人が出たため、あるいは戦術的理由で追加の交代がそのとき（同じアウトオブプレー中）に要求された場合は、主審は交代を行わせ、交代回数ははじめの交代(A)と同じ機会に行ったとして1回とカウントします。

第14条の「ゴールキーパーの位置」の改正は、ボールがけられるまでと、ボールがけられる瞬間とで状況が区別されています。

- ①ボールがけられるまでは、ゴールキーパーはキッカーに面して両足をゴールライン上に残しておかなければならず、ゴールラインの後方にも前方にも足を置くことはできません。キッカーが助走しているときなどボールがけられる前に、ゴールキーパーは片足をゴールラインより前に出したり、ラインの後方に位置させてよいということではないことに留意してください。
- ②ボールがけられる瞬間（けられるとき）は、片足の一部がゴールラインに触れている、もしくはゴールラインの上方にある、または後方であれば、他方の足をゴールラインより前に出しても反則にはなりません。

その他の改正については、通達文、解説、日本協会の解説のとおりとなります。

https://www.jfa.jp/documents/pdf/soccer/law_soccer_220633_02.pdf

https://youtu.be/4FM75i_KwLE

（JFAホームページより）

【東京の大会の新競技規則適用日】

- ・高円宮杯 JFA U-18 サッカーリーグ 東京【U-18 Tリーグ】 2022年9月1日から適用
- ・高円宮杯 JFA U-15 サッカーリーグ 2022(東京都)【U-15 Tリーグ】 2022年8月27日から適用
- ・その他の大会 ※試合会場で本部役員と必ず確認し、競技会規定に従ってください。

■ 編集後記

真夏日・猛暑日が続く今夏ですが、皆さん、トレーニングはできていますか？トレーニングは試合のために心・技・体の準備をするものです。それはどのようなカテゴリーの試合でも、アクティブ審判員でもグラスルーツの審判員でも、審判をする以上は行うべきことです。真夏は比較的試合がない時期かもしれませんが、来る秋のシーズンに向けて、あるいはこの週末に審判活動がある方は、ご自身のコンディションと相談し、熱中症や熱射病に注意しながら、この暑い環境でもできるトレーニングをしましょう。例えば、涼しい朝や晩に行う、短時間で回数を増やすなどの工夫をしてみてください。

そして、毎年競技規則改正のこの時期、競技規則の勉強・確認をしてみましょう。競技規則は、4級でも国際審判員でも、統一した解釈と理解で行われるものです。改正内容を確認することはもとより、それ以外の規則についても年1回、ゆっくりと読んでみてください。読めば読むほど新しい発見があるのがサッカー・フットサルの競技規則です。